

Ⅱ. 2024年度活動報告

1 意識改革

(1) 山形大学男女共同参画及びダイバーシティセミナー LGBTQA当事者のつまずきポイント～山形在住当事者の視点から～

令和6年6月25日（火）に「山形大学男女共同参画及びダイバーシティセミナー」を開催した。毎年6月23日から29日までの一週間は「男女共同参画週間」とされており、本学では、この「男女共同参画週間」の趣旨に賛同し、「山形大学男女共同参画及びダイバーシティセミナー」を毎年開催している。今年も、LGBTQAについて、まず知ること、大学でできる支援は何か、を考えていく機会となるよう、当事者の方からご講演いただいた。

講師には、SCUBA!（スクーバ）代表のカナグス氏をお招きし、本学教職員のみならず、学生や一般の方を含め、多くの方に参加いただけるよう、オンライン開催とした。

約70人が参加した本セミナーでは、架空の人物になぞらえた当事者のライフステージをたどりながら、各局面で遭遇するつまずきポイントや救われポイントを紹介し、どうしたらつまずきを防げるか、事例の詳細も交えて紹介された。

講演後、受講者からは職場環境や学校での事例への対応などについて質問が相次ぎ、カナグス氏からは、事例へのアドバイスや周囲への理解についての指摘があった。

終了後は、「避けていたような内容を、ストレートに伺うことが出来た」「職場などで当事者に配慮した個別具体的な対応を検討するのではなく、誰でも働きやすい環境を整えることはその通りと感じたが、見落としやすいポイントだと感じた」「性の多様性があることを知っている程度だったが、今回、当事者のつまずきの知識を得られ、身近な人にもいるかもしれないという新しい視点を得られた。男女と単純に区別できないことを理解し、今までとは違った視点で捉えられそう」などの声が寄せられ、大変有意義な機会となった。



講演会の様子



チラシ

(2) 令和6年度 山形大学男女共同参画及びダイバーシティフェスタ ～だれもがどれも選べる社会に～

令和6年6月24日(月)～6月28日(金)に「令和6年度 山形大学男女共同参画及びダイバーシティフェスタ ～だれもがどれも選べる社会に～」を開催した。

毎年6月23日から29日までの一週間は「男女共同参画週間」とされている。本学では、この趣旨に賛同し、毎年同期間において、山形大学男女共同参画及びダイバーシティフェスタを開催している。

今年度のフェスタも昨年同様、大学会館を会場としLGBTQに関する取組み等のポスターを始め「山形大学における多様な性に関するガイドライン」「カラフルCafé」「アンコンシャス・バイアス」に関するパネル展示を行った。さらには、本学出身で、日本では3人目の女性理学博士、現北海道大学最初の女子学生であり、理化学研究所でも初の女性研究員で主任研究員であった「加藤セチ博士」のプロフィールマップも展示した。

来場者アンケートによると、興味を持ったパネルについてはどれも偏りなく興味関心が向いていた。「分かりやすくまとめてあってよかった。アンコンシャス・バイアスについて心当たりがあったので、それに気がつくいい機会となった。」「自分が知らない知識を得ることができてよかった」等の感想もいただいた。

また今年度は来場者アンケートを実施。令和6年1月4日から山形県で始まった「パートナーシップ宣誓制度」について知っているかの問いに全63件の回答があり、そのうち知っていると答えた割合は20.6%と認知度の低さが伺えた。

多様な性については興味関心が様々であるが、本学の学生及び教職員が自身のアイデンティティに関わらず、あらゆる場面において個性と能力を発揮できるよう、これからも男女共同参画及びダイバーシティを一層推進していきたい。



展示の様子(全体)



加藤セチ プロフィールマップ

男女共同参画及び ダイバーシティフェスタ2024

～だれもがどれも選べる社会に～

パネル展示

6/24(月)～6/28(金) 小白川キャンパス大学会館

ダイバーシティに関する本学の取組みや加藤セチ(本学出身・女性研究者)の活躍に関するパネルを展示します。是非お気軽にお立ち寄りください!

内閣府の男女共同参画週間にあわせて開催しています

中央図書館には、男女共同参画やダイバーシティに関連する図書コーナーを常設しています。

◆お問い合わせ◆
山形大学ダイバーシティ推進室 TEL:023-628-4939

—HPはこちら

チラシ

(4) 学長・学部長と女性研究者との懇談会

本学では、女性研究者にとって、働きやすく研究しやすい環境づくりを行うため、学長や学部長と女性研究者が意見交換を行う「学長・学部長と女性研究者との懇談会」を各キャンパスにおいて開催している。令和6年度の懇談会実施状況は次のとおりである。

〈テーマ：女性研究者を取り巻く課題について〉

開催キャンパス名	開催日時	参加状況
米 沢	12月3日 (火) 15:15~16:15	12名 (うち女性研究者9名)
小白川	12月4日 (水) 15:15~16:00	10名 (うち女性研究者4名)
鶴 岡	12月12日 (木) 15:00~16:00	8名 (うち女性研究者6名)
飯 田	1月30日 (木) 15:45~16:45	13名 (うち女性研究者11名)

(キャンパス名)	効果・特筆事項
米 沢	学生指導に関する内容や研究者自身に関する内容、業務に関する内容等、幅広い内容で意見・要望が出された。キャンパスの状況に特化した事項に関しては、改善に向けた提案も出され、有意義な会となった。
小白川	現行制度に関する情報提供や周知について、要望が出された。
鶴 岡	テニュアトラック教員の業務に関する内容や、「産休・育休を取得する教員をフォローする教員への支援」等について、要望が出された。
飯 田	病児保育に関する内容や、テニュアトラック教員の予算に関する内容について要望が出された。



米沢キャンパス



小白川キャンパス



鶴岡キャンパス



飯田キャンパス

(5) 多様な性に関するガイドライン

山形大学では、第2次山形大学男女共同参画基本計画（令和2年4月施行）において、男女共同参画及びダイバーシティを一層推進し、「個々の性別、性的指向・性自認等にかかわらず、本学の学生及び教職員が自然にお互いを認め、受け入れることができる組織を目指す」ことを掲げており、様々な取組を行っている。

その取組の一つとして、令和3年2月には「多様な性に関するガイドライン」を作成し「多様な性」について、本学の姿勢、現段階での

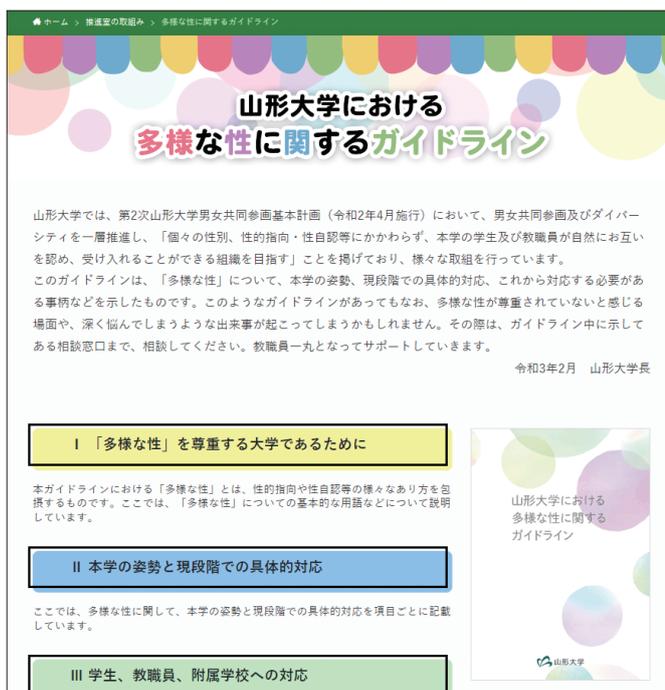
具体的な対応、これから対応する必要がある事柄などを示した。

また、本学の各キャンパスには「多様な性に関する学内の相談窓口」が設置されており、多様な性が尊重されていないと感じる場面や深く悩んでしまうような出来事が起こった場合など、相談を随時受け付けている。

なお、令和6年度は、本学へ新たに入学した学生に対し、当該ガイドライン（リーフレット）を配布し周知を行った。



ガイドライン（パンフレット）



ホームページトップ画面

② 仕事と育児等との両立支援

(1) 各種保育利用料補助制度

1. 制度の目的

山形大学に所属する研究者等に対し、夜間保育、休日保育、病児・病後児保育、学童保育の利用料金及び大学入学試験業務のための一時預かりの利用料金を補助し、仕事と育児の両立を支援することを目的とする。

2. 支援の対象者

支援の対象となるのは、本学に所属する国立大学法人山形大学職員人事規程別表（以下「人事規程別表」という。）に掲げる職員のうち、教授、准教授、講師、助教、助手、研究専任教授、研究専任准教授、研究専任助教、特任研究員及び医員（年俸制の者に限る。）で、小学校6年生までの子どもを養育する研究者とする。

ただし、人事規程別表に掲げる職員で、大学入学試験当日の業務のために支援対象となる子どもを一時預かりとする職員は、当該一時預かりにかかる利用料金の支援対象者とする。

3. 補助額

補助される額は、子ども一人につき年間二万円（源泉徴収分を含む）を限度とする。

ただし、下記4⑤の場合は、年間二万円の限度に含まれない。

4. 支援の対象となる保育

支援の対象となるのは、事業者（ファミリーサポートセンター等）による次に掲げる保育で、親族・知人によるものは除く。ただし、事業者への保育依頼が困難である場合には、ベビーシッターに保育を依頼することができるものとする。

- ① 夜間保育（延長保育を含む）
- ② 休日保育（ただし、通常保育及び延長保育を除く）
- ③ 病児・病後児保育
- ④ 学童保育
- ⑤ 大学入学試験（大学入学共通テスト・個別学力テスト・推薦入試など）の業務のために利用する一時預かり

5. 利用者状況

今年度の利用登録者数は20名（支援対象者：33名）であった。

(2) 研究支援員制度

1. 制度の目的

山形大学（以下「本学」という。）に勤務又は在学する研究者が、ワークライフバランスを保ちながら研究活動を行う環境作りの一環として、研究支援員（以下「支援員」という。）を配置し、出産、育児、介護等により十分な研究活動を行うことができない研究者を支援することを目的とする。

2. 支援の対象者

支援の対象となるのは、

1. 本学に所属する国立大学法人山形大学職員人事規程別表に掲げる職員のうち、教授、准教授、講師、助教、助手、研究専任教授、研究専任准教授、研究専任助教及び医員（年俸制の者に限る。）
2. 山形大学研究員等取扱規程に掲げる研究員のうち、博士研究員
3. 大学院各研究科博士後期課程及び医学系研究科博士課程医学専攻に在学する学生のうち、次に掲げるいずれかの要件で研究活動に支障が生じている研究者とし、ダイバーシティ推進室長が認めた者とする。

ただし、博士研究員及び大学院各研究科博士後期課程及び医学系研究科博士課程医学専攻に在学する学生が支援を必要とする場合は、博士研究員及び学生の指導を担当する教員が支援員の申請及び管理等を行うものとする。（指導を担当する教員は、本学の常勤の職員とする。）

- ① 妊娠中又は小学6年生までの子供を養育している者
- ② 市町村から要介護の認定を受けている親族（同居別居は問わない。）を介護している者
- ③ その他、上記①及び②に準ずる者

なお、4月に実施する新任研究者向けの募集対象者は、当該募集対象となる期間に、支援対象となる職位等の身分を新たに有することとなった者に限るものとする。

3. 支援する内容

- (1) 支援員に依頼できる業務は、当該研究者があらかじめ申請し、審査の上、ダイバーシティ推進室長が決定したものとする。あくまでも研究上において真に必要な補助業務に限る。
- (2) 支援員によって支援できる時間は、支援業務の内容、関連予算等を勘案し、週6時間までの範囲でダイバーシティ推進室長が決定する。（申請時間が全て認められるとは限らない。）

4. 支援する期間と経費負担

- (1) 支援員による支援期間は、1年間（4月1日から翌年3月31日）とする。ただし、当該期間中に支援対象者としての資格要件を失った場合は、直ちに支援を終了する。なお、支援対象者が資格要件を失った場合であっても、本制度の支援員として既に締結している雇用契約期間については、配置換を行うことで雇用を保障する旨を事前に支援員へ説明すること。

- (2) 支援員の雇用に要する経費は、ダイバーシティ推進室が負担するものとし、採用に当たっては、「国立大学法人山形大学短時間勤務職員就業規則」又は「国立大学法人山形大学アドミニストレイティブ・アシスタントに関する規程」に定める規則を適用する。
- (3) 支援員に係る雇用経費は、学長裁量経費から支出する。

5. 利用者状況

今年度の利用者数は27名であった。

(3) 研究支援員へのノートパソコン貸出

1. 制度の目的

ダイバーシティ推進室が実施している研究支援員制度の採択を受け、研究支援員を雇用している研究者の利便性を考慮し、当該研究支援員が業務上使用するためのノートパソコンを貸し出すことにより、研究支援員制度の充実を図ることを目的とする。

2. 貸出利用対象者

令和6年度の研究支援員制度に採択され、研究支援員を雇用の上、当該研究支援員にパソコンを必要とする業務を行わせている又は行わせる予定である研究者とし、ダイバーシティ推進室長が認めた者とする。

3. 利用者状況

今年度の利用者数は10名であった。

(4) 学会等参加時の保育・介護支援制度

1. 制度の目的

山形大学（以下「本学」という。）に勤務する教職員等の仕事と育児・介護の両立を支援するため、学会等参加時の託児、ベビーシッター、介護支援施設、ホームヘルパー等の利用料金の一部を補助することを目的とする。

2. 支援の対象者

補助の対象となるのは、本学に所属する国立大学法人山形大学職員人事規程別表に掲げる職員のうち、教授、准教授、講師、助教、助手、研究専任教授、研究専任准教授、研究専任助教、特任研究員、医員（年俸制の者に限る。）及び山形大学研究員等取扱規程に掲げる研究員のうち、博士研究

員並びに大学院各研究科博士後期課程及び医学系研究科博士課程医学専攻に在学する学生で国内外の学会（付随する会議を含む）等へ参加するために託児、ベビーシッター、介護支援施設、ホームヘルパー等を利用する者のうち、次に掲げるいずれかの要件を満たすものとする。

- (1) 小学校6年生以下の子どもを養育している者
- (2) 要介護認定1以上の同居家族（別居の実父母、義父母、養父母を含む）を介護している者

なお、研究員については、週30時間以上研究に従事する者に限る。

3. 利用者状況

今年度の登録者数は3名（支援対象者：子供5名）であった。

(5) 女性管理職支援

1. 制度の目的

山形大学の女性管理職に対し、保育施設の利用料金及び介護施設又は介護サービス等の利用料金を補助し、仕事と育児・介護の両立を支援することを目的とする。

2. 支援の対象者

国立大学法人山形大学管理職手当支給細則第2条第1項に規定する区分1種から7種までの女性職員及び国立大学法人山形大学及び山形大学基本組織規則の規定に基づき任命された女性の副学長で、次に掲げるいずれかの要件を満たすものとする。

- (1) 小学6年生までの子を養育している者
- (2) 要介護認定1以上の同居家族（別居の場合は、実父母、義父母、養父母のみ）を介護している者

3. 支援の対象となる保育

支援の対象となるのは、保育・介護サービス等で、主に次に掲げるもの。

【2の（1）に該当する場合】

- ① 夜間保育（延長保育を含む）
- ② 休日保育（ただし、通常保育及び延長保育を除く）
- ③ 病児・病後児保育
- ④ 学童保育
- ⑤ その他上記に類する保育サービス

なお、事業者への保育依頼が困難である場合に依頼したベビーシッターにかかる利用料金は、支援の対象とすることができるものとする。

【2の（2）に該当する場合】

- ① ショートステイ等の介護支援施設の一時預かり
- ② ホームヘルパー等の訪問介護サービス
- ③ 通所介護（デイサービス）及び通所リハビリテーション（デイケア）
- ④ 介護用品のレンタル
- ⑤ その他上記に類する介護サービス

なお、いずれも公的介護保険が適用されるものを含むものとする。

4. 補助額

補助される額は支払った利用料金とし、対象となる子又は要介護者一人あたり二万円（源泉徴収分を含む）を限度とする。

(6) 女性研究者へのノートパソコン貸出

1. 制度の目的

平成23年度から山形大学男女共同参画基本計画（平成22年6月策定）に基づき、教育・研究と生活との両立のための環境整備の一環として本学の女性研究者に対して、ノートパソコンの貸し出しを行うことを目的とする。

2. 支援の対象者

国立大学法人山形大学職員人事規程別表に掲げる職員のうち、教授、准教授、講師、助教、助手、研究専任教授、研究専任准教授、研究専任助教、特任研究員、医員（年俸制の者に限る。）及び山形大学研究員等取扱規程に掲げる研究員のうち、博士研究員並びに大学院各研究科博士後期課程及び医学系研究科博士課程医学専攻に在学する学生で以下に該当する女性とする。

- ① 妊娠中、又は小学6年生までの子育て中の者
- ② 市町村から要介護の認定を受けている親族（同居別居は問わない）を介護している者
- ③ 勤務地の都合により、2世帯以上の生計を営んでいる者
- ④ その他、上記理由に準ずる者

3. 利用者状況

今年度の利用者数は11名であった。

(7) 研究中断からの復帰支援制度

1. 制度の目的

山形大学（以下「本学」という。）に勤務する研究者が、妊娠・出産・育児・介護のライフイベントにより、やむを得ず研究中断した場合において、中断からの復帰を円滑に進めるための研究費支援を行い、研究者の継続的な育成や多様な研究環境を実現することを目的とする。

2. 支援の対象者

支援の対象となるのは、本学に勤務する国立大学法人山形大学職員人事規程別表に掲げる職員のうち、教授、准教授、講師、助教、助手、研究専任教授、研究専任准教授、研究専任助教、特任研究員、医員（年俸制の者に限る。）で、次に掲げるいずれかに該当し、ダイバーシティ推進室長が認めた者とする。

- ① 妊娠・出産・育児・介護のライフイベントのために通算3ヶ月以上研究活動を中断し、令和5年度中に当該研究活動中断から職務復帰した者
- ② 妊娠・出産・育児・介護のライフイベントのために通算3ヶ月以上研究活動を中断し、令和6年度の本制度募集期間に当該研究活動中断から職務復帰し、指定された日までに申請完了できる者

なお、研究活動中断期間については、当該復帰した日の前日から起算し、1年前まで遡ることができるものとする。（以下「研究中断対象期間」という。）

3. 支援額

10万円とする。

4. 利用者状況

今年度の利用者数は1名であった。

③ 女性研究者の裾野拡大

(1) 女性研究者裾野拡大セミナー

農学部

「農学研究科の先輩との交流会」

◆日時：令和6年5月15日（水）

◆会場：Zoom開催（農学部1号館会議室）

◆対象者・参加人数：主に女性学部4年生および女性修士2年生（男性学生も可）

58人（男性37人・女性21人）

◆内容：

例年農学部でおこなっている大学院説明会について、本年度は二部構成として、第二部に「女性研究者の裾野拡大に係る交流会」を開催した。第二部では、現役修士学生および修士修了生（両名共に女性）を招いて、参加者から事前に寄せられた質問に彼女らが回答するという方法で進めた。時間は約30分間であった。

◆効果：

進学説明会に事前に寄せられた質問は48あり、このうち彼女らに回答を求めるような質問は20以上に及んだ。ここから参加者が、実際の修士進学者の実体験や経験に強い関心を有していたことがうかがえた。申込者総数は58名であり、うち女性が21名に及び、第2部で修士女性学生や女性修了生の話が、進学を考える上で参考になったと想像する。また学部の別については学部内50名、他学部3名、学外5名であり、他学部や学外の参加者を得たことも効果としては大きかった。

理学部

高校1年生向け 「理学部で何ができるのか？～女子高校生のための山大理学部案内～」

高校2年生向け 「理学部の研究室を覗いてみよう！」

◆日時：令和6年11月26日（火）

◆会場：基盤教育3号館321番・333番講義室、理学部1号館11番・13番講義室等

◆対象者・参加人数：山形県立山形西高等学校・山形県立新庄北高等学校 生徒

146人（男性0人・女性146人）

◆内容：

山形大学理学部での研究・教育について、将来女性研究者となる可能性のある女子高校生に理解してもらうことを目指す。具体的な目的は以下のとおりである。

- ・理学部の研究・教育内容を具体的に紹介し、より明確な理解を得る。
- ・在籍する女子学生、女性研究者の生の声を聞き、対話する機会を設けることで、将来の女性研究者増につなげる。
- ・研究室を見学する機会を設け、将来の選択肢の1つとしてもらう。

（1年生向け）「理学部で何ができるのか？女子高校生のための山大理学部案内」

5分野1領域から在学生在が参加し、研究分野・学生生活について紹介する。

（2年生向け）「理学部の研究室を覗いてみよう！」

5分野1領域から在学生在が参加し、研究分野・学生生活について紹介する。

その後、興味のある分野・領域に別れ、模擬講義（実験・講義等）を行う。

◆効果・反省点

（1年生向け）

各分野・領域の在学生在が教育・研究・学生生活の紹介を行った。

高校生が抱く「なぜ、理学部を選んだのか？」「理学部ではどのような教育・研究が行われているの？」といった一般的な疑問については、学生が経験談を交え回答している姿が見られた。

（2年生向け）

- ・データサイエンス領域：ネットワークと多数決
- ・数学分野：3次方程式を深掘しよう
- ・物理学分野：宇宙を「物理」で理解する
- ・化学分野：化学反応を利用して『光る物質』を観察してみよう！
- ・生物学分野：植物の細胞を見る、感じる
- ・地球科学分野：鉱物からのぞく地球・鉱物を観察しよう

という内容で、各研究室が工夫を凝らした実験・講義を行った。参加者は、興味を持った分野、領域の実験室等を訪問し、これらの実験・講義を体験した。

(2) 山形大学女性大学院生ネットワーク(略称 山大JOIN)

山大JOINとは、次世代育成・裾野拡大事業として平成30年度に設立された女性研究者をめざす女性大学院生のネットワークである。7年目となる今年度はホームページとポスターを一新、4月からメンバー募集を行い登録者数は12名となった。

主な活動内容は、裾野拡大事業（小中高校生向け事業）や出前講座（進路学習・探究学習含む）への参加、自主企画および実施等、その他様々な活動を行っている。

今年度は、女子中高生の理系への進路選択に資する出前講座を米沢興譲館高校（7月22日開催）で行い、高校生へ向けて自身の体験談やメッセージを伝えた。事前に質問を募集しそれに答える場面もあり、高校生からは将来の進路選択に向けてとても有意義な時間になったという回答が寄せられた。

また、今年度新たな活動として山大JOINメンバーの研究発表会が開催された。対象は学部生～大学院生までの学生、高校生。博士前期課程2年生のメンバーは現在行なっている研究内容について、1年生のメンバーは大学院生活について発表し、発表後はメンバーと研究への相談や意見交換を行った。参加したメンバーからは、「新しい仲間と切磋琢磨できることを非常に喜ばしく思った。また専門外の研究に携わるメンバーの話も興味深く、ものの見方や考え方は非常に勉強になった。」との声が、発表を聞いた学生からは「とても良い機会だった」との声が寄せられた。

その他にも、昨年度に引き続き山大JOINメンバー主催の学部生や大学院生対象のプレゼン講座を開催したり、メンバー間の交流会（オンライン）を開催したりと、積極的に活動を行った。

以上の多様な取り組みは随時ホームページに掲載、原稿は山大JOINメンバーが作成し、活動をPRした。今後も積極的に活動を行っていく予定である。

山大JOIN
Yamadai JOIN

We are always looking for people who want to join us!

一緒に活動する仲間を募集しています

山大JOINメンバーとして一緒に活動しませんか？

山大JOINとは
山形大学女性大学院生ネットワークの略称です。女性大学院生の仲間・先輩・後輩、そして夢へ「つなぐ（JOIN）」という意味が込められています。

活動内容
裾野拡大事業（小中高校生向け事業）や出前講座（進路学習・探究学習含む）への参加、自主企画および実施等、その他様々な活動を予定しています。その他、JOINメンバーでの交流会や研究発表会も行っています。

対象となる方
本学に在籍する女性大学院生の方（文系・理系問わず）

詳しくは **山大JOIN HP** へ

こんな方、ぜひお待ちしております!!

- ・大学院生として何か活動してみたい方
- ・研究の魅力を伝えたい方
- ・自身のスキルアップに
- ・他の大学院生と交流してみたい 等

➡ **加申込はこちら** ➡

お問合せ 山形大学ダイバーシティ推進室
TEL : 023-628-4939 E-mail : yu-y-danjo@jm.kiyamagata-u.ac.jp



米沢興譲館高校 山大JOINとの懇談会



研究発表会の様子



研究発表会後の記念撮影

後援：山形大学ダイバーシティ推進室

山大JOIN 交流会

～メンバーはどんな研究をしている?～

8 / 2 (金) 山形大学小白川キャンパス
基盤2号館 211教室
13:00～15:00

山大JOINのメンバーが
大学院での研究活動や
普段の大学院生活について
をご紹介します

- ◇理工学研究科 (理学系・工学系)
- ◇社会文化創造研究科 (社会文化システム・臨床心理学)

●申し込みとお問い合わせ
左のQRコードからお申し込みください。
山形大学ダイバーシティ推進事務局
TEL : 023-628-4939
e-mail : yu-y-danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp



7月26日(金) 締切

山大JOINとは
山形大学女性大学院生ネットワークの略称です。
女性大学院生の仲間・先輩・後輩、そして夢へと「つながり(JOIN)」という
意味が込められています。
研究者をめざす女性大学院生の学内ネットワークの構築やキャリア形成支援
裾野拡大の推進を目的として、平成30年度にスタートしました。
裾野拡大事業や出前講座への参加、企画および実施等、その他様々な活動を
予定しており文系・理系を問わず、山形大学に在学する女性大学院生であれば
誰でも登録できます。

ポスター (山大JOINメンバー作成)

(3) 令和6年度基盤教育・ジェンダー関連授業

「キャリア形成とワークライフバランス（山形から考える）」

授業時間 後期水曜日7・8校時（14:40～16:10）

1 目的

- (1) 多方面で活躍する方々の経験に基づいた講義をとおして、男女が共に仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を保つことができる働き方について考え、自らのキャリアビジョンを描く。
- (2) 日本の最重要課題となっている「男女共同参画社会」について深く理解し、どのような課題をどのように解決するのか具体的に考える。

2 内容

本学の男女共同参画基本計画（第2次）に基づいた学内の様々な取組みを説明し、学内外から講師を招いて、自身のキャリア形成や経験に基づくワークライフバランスについて話をしてもらった。グループ学習として各講師の話を聞いて意見交換の時間を設けたり、また、アンコンシャス・バイアスについてワークショップを実施した。山形県男女共同参画センター・チェリアを訪問し、事業内容の説明を受けたり、施設の見学も行った。

3 講師一覧（敬称略）

	月 日 (曜)	講 師 名	プロフィール等
1	10月9日 (水) 14:40～ 16:10	高橋 真枝 山形市役所企画調整部 次長 (兼) 男女共同 参画センター所長	山形市役所1992年採用。教育委員会管理課長を経て2022年度より現職。これまで主に教育委員会のほか産業振興の業務を担当。
2	10月16日 (水) 14:40～ 16:10	並河 英紀 学術研究院 教授 (理学部)	専門は化学。自己組織化と呼ばれる現象について生命・非生命の双方から研究している。神戸大学、北海道大学を経て、2011年に山形大学着任。大学院生時代にはドイツに4か月留学。
3	10月23日 (水) 14:40～ 16:10	加藤 健司 学術研究院 教授 (人文社会科学部)	専門は日欧比較文学。文学理論や翻訳に興味を持っている。学部から慶應義塾で学び富山県の短大を経て2010年に山形大に赴任。
4	10月30日 (水) 14:40～ 16:10	富樫 周子 東北パイオニア株式会社 市販サウンド営業部 市販管理課	北米（アメリカ、カナダ、メキシコ）市場で販売する自社製品（カー用スピーカー、アンプ）の生産・販売管理を担当。山形北高等学校、山形大学を経て2013年4月に東北パイオニア株式会社に就職。
5	11月6日 (水) 14:40～ 16:10	叶 奈緒美 学術研究院 准教授 (農学部)	専門は食品機能学。食品成分が抗がん作用や抗炎症作用を発揮するメカニズムについて研究している。岡山大学大学院博士後期課程修了後、学術研究員、徳島大学の助教を経て、2021年本学テニュアトラック准教授。

6	11月13日(水) 14:40～ 16:10	橋爪孝夫 学術研究院 准教授 (学士課程基盤教育院)	専門は教育史。日本教育史の分野で戦後日本の教育改革の研究をしている。東京出身、桜美林大学大学院を経て、2012年に山形大学に赴任。
7	11月20日(水) 14:40～ 16:10	岩本勸汰 アイジー工業株式会社 研究開発部 材料開発チーム	製品に使用する材料について研究を行っている。弘前高校、山形大学、山形大学院を経て、2022年にアイジー工業に入社し現在3年目。
8	11月27日(水) 14:40～ 16:10	黒谷玲子 学術研究院 教授 (工学部)	専門は分子生物学、細胞生物学など。大学院修了後、博士研究員、横浜市立大学助教、本学テニュアトラック助教を経て2014年本学准教授、2024年本学教授。
9	12月11日(水) 14:40～ 16:10	井上麻美子 学術研究院 准教授 (教育実践研究科)	専門は教育経営・学習開発。授業づくりについて研究している。山形大学を卒業し、1998年から県内の小学校教員となる。2015年山形大学附属小学校赴任、2023年山形大学大学院教育実践研究科赴任。
10	12月18日(水) 14:40～ 16:10	山口優 山形県立東桜学館 中学校・高等学校 教諭	山形県立東桜学館高校で、国語科の教員をしている。母校米沢興譲館高校での勤務を経て、2023年より、中高一貫校である現任校に中学校教諭として赴任。今年度より現職。

4 授業パンフレットの発行

平成29年度より、『『キャリア形成とワークライフバランス（山形から考える）』授業まとめ冊子』を年度末に発行している。各講義の内容と学生の授業記録をまとめた内容で、学生、教職員、一般の方に配布し、男女共同参画社会やジェンダーについて考える契機になっている。



アンコンシャス・バイアスについてワークショップ



県男女共同参画センター見学

4 表彰制度

(1) 令和6年度「山形大学男女共同参画及びダイバーシティ推進賞」授与表彰式

令和6年11月1日（金）に令和6年度「山形大学男女共同参画及びダイバーシティ推進賞」授与表彰式を開催した。

この賞は、男女共同参画及びダイバーシティの推進に貢献した山形大学の教職員及び教職員で構成する団体（教職員と学生を構成員とする団体を含む）を表彰することにより、その功績を称えて更なる活動を促し、また、大学全体の男女共同参画およびダイバーシティに対する意識の醸成を図ることを目的とし、昨年度新設された。第2回となる今年度の受賞者は、複数の候補者の中から、理学部主担当の河合寿子准教授、理工学研究科主担当の黒谷玲子教授に決定した。

学長室で行われた授与表彰式では、初めに、ダイバーシティ推進室長である伊藤理事から授賞理由の説明が行われ、続いて学長から受賞者に表彰状と副賞が授与された。

表彰状等の授与後、河合准教授、黒谷教授からはそれぞれお礼の言葉が、学長からはお祝いの言葉が述べられた。



授与表彰式の様子

5 アウトリーチ活動

機 関 等	連 携 内 容
大学コンソーシアム やまがた	①大学コンソーシアムやまがた（副室長） ・幹事会 第1回開催日：令和6年5月1日（水）（持ち回り） 第2回開催日：令和6年6月17日（月） ・総会 開催日：令和6年7月1日（月） ②大学コンソーシアムやまがたダイバーシティ推進ネットワーク会議 ・第1回開催日：令和6年7月24日（水）（議長：副室長） ・第2回開催日：令和7年3月
山形県男女共同参画 センター チェリア	①男女共同参画センター企画運営委員会（委員：副室長） 開催日：令和7年3月 ②男女共同参画県民企画事業 審査委員会（副室長） 開催日：令和6年6月15日（土） ③チェリア登録団体ネットワーク会議（副室長） 開催日：令和7年2月 ④チェリアフェスティバル山形2024実行委員会（副室長） 第1回開催日：令和6年4月27日（土） 第2回開催日：令和6年5月25日（土） 第3回開催日：令和6年9月21日（土） 第4回開催日：令和6年12月14日（土） ⑤チェリアフェスティバル2024 展示「山形大学ダイバーシティの推進～多様な性、女性活躍 先人の紹介～」 展示日：令和6年11月9日（土）から11月16日（土） ⑥チェリアフェスティバル山形2024 講演会 講演：林 伴子氏「地域経済と女性 若年女性の人口流出をどう止めるか」 開催日：令和6年11月9日（土） ⑦「やまがた緑塾」 「学校 ～ジェンダー平等の取り組み～」（講師：副室長） 開催日：令和6年8月3日（土）
山形市企画調整部 男女共同参画センター	①男女共同参画審議会（会長：副室長） ・第1回開催日：令和6年6月12日（水） ・第2回開催日：令和6年12月12日（木） ②男女共同参画に関する一行詩 作品募集：基盤共通教育科目受講学生応募 ・作品審査会：令和6年8月29日（木）（審査員：副室長） ・作品入賞 表彰式：令和6年10月26日（土）（講評：副室長） ③山形市男女共同参画センター 女性人材育成事業（助言者：副室長） ・ミートアップ開催日：令和6年5月29日（水） ・成果発表会開催日：令和7年2月26日（水）（講評：副室長）
山形県産業労働部 雇用・産業人材育成課・ 働く女性サポート室	①山形県若年女性県内就職・定着協議会（委員：副室長） 開催日：令和6年9月2日（月）

機 関 等	連 携 内 容
全国ダイバーシティネットワーク組織	①全国ダイバーシティネットワーク幹事会（推進室長、副室長） 開催日：令和7年2月17日（月）（オンライン）
全国ダイバーシティネットワーク組織 東北ブロック	①東北ブロック会議（室長、副室長） 開催日：令和7年2月3日（月）（オンライン）
裾野拡大 女子中高生理系進路選 択支援	①米沢興譲館高等学校出前講座（講師：鈴木朱美 医学部講師、山大JOIN） 開催日：令和6年7月22日（月）
その他	①山形県教育センター新規採用教頭研修 「学校のジェンダー平等～DE&Iの広がりの中で～」（講師：副室長） 開催日：令和6年5月10日（金） ②山形県教育センター5年経験者研修 「ジェンダー平等について」（講師：副室長） 開催日：令和6年6月28日（金） ③山形県立霞城学園高校 ジェンダー平等にかかわる職員研修会 「ダイバーシティ その教育実践のために」（講師：副室長） 開催日：令和6年12月26日（木） ④米沢市教育研究会 教育相談部会研修会 「小中学校におけるジェンダー平等教育」（講師：副室長） ⑤東北活性女性定着情報発信普及啓発検討委員会（委員：副室長） 第1回開催日：令和6年5月29日（水）オンライン 第2回開催日：令和7年2月27日（木） ⑥山形県立酒田東高校SSH運営指導委員（委員：副室長） 第1回開催日：令和6年6月20日（木） 第2回開催日：令和7年2月5日（水） 2年次課題研究発表会：令和7年2月6日（木）

6 広報活動

ダイバーシティ推進室では、学内教職員・学生へ向けてホームページやニュースレターを活用して随時情報を発信している。

ホームページ

今年度は「各種支援制度」のページに支援制度利用者の声をまとめ新たに掲載、また「山大JOIN」のページを一新し、常に最新の情報が得られるよう更新を進めた。

また、トップページの「お知らせ」には、推進室が主催するセミナー・シンポジウム等の案内だけでなく、学内外で行われているイベント（カラフルカフェ、やまがたカラフルパレード等）の告知も行い、情報提供に努めている。

ニュースレター

年1回発行しているニュースレターは、すべての人が各自の個性を生かし、能力を発揮できる環境を創るための情報発信型である。今年度は「呼称」についてや、男女共同参画及びダイバーシティセミナーなどを取り上げた。また、昨年度まで「女性研究者からのメッセージ」として掲載していたが、ダイバーシティへの関心や理解を広げていく、という観点から広く本学研究者より寄稿いただく形に変更した。

全国ダイバーシティネットワーク組織ウェブサイト

平成30年11月に「全国ダイバーシティネットワーク組織」が設置され、令和元年にウェブサイト OPENeDが開設された。本学の取組が参考事例として掲載されており、令和元年度より、山形大学の女性研究者採用情報をリンクしている。

令和6年度は、東北ブロック活動の中で南東北会議研修会について掲載された。

裾野拡大のための広報

県内外の高校に対し、各種イベント開催の告知・広報を行った。